



# 藤中だより

保護者・地域に信頼される学校を目指して

〈目指す生徒像〉

- よく考え工夫して学ぶ生徒(知)
- 人と自分を大切にする生徒(徳)
- 心と体を粘り強く鍛える生徒(体)

令和7年10月1日 校長 竹田 聡

## 〈年度の中間点を迎え〉

日頃より本校の教育活動にご理解、ご協力いただきありがとうございます。また、9月6日(土)に開催した文化祭に、多数の方に来校していただきありがとうございました。加えて、9月11～27日に行われた新人入間北部体育大会・入間地区大会に際し、たくさんのご家庭にはご理解、ご支援いただき厚くお礼申し上げます。

さて、10月は学年の中間点です。前半の取組を振り返り、成果と課題を整理するよい時期です。半年後の進級・進学に向けて、続けることと、改善すべき点ををお子さんと一緒に考えてください。特に、食事や睡眠時間など健康の源を確保して、無理なく継続できる方法を考えてください。

後期は下校時刻が早くなり、自分の時間が増えます。増えた時間を有効に使えるように、ご家庭でも話し合ってください。また、夕暮れが早くなり、交通事故や不審者対応などの心配事も増えます。学校でも安全指導を行いますので、ご家庭でもご協力をよろしくお願い致します。

## 〈藤中ならではの文化祭〉

9月6日(土)に開催した文化祭は、体育館のステージ発表で、吹奏楽部・美術部・技術学芸部の文化部が趣向を凝らした発表を行い、人権作文・英語スピーチコンテスト代表の発表、有志発表Fujiフェスが行われました。

中学校の「文化祭」は、文化部や学問・芸術的な発表の機会となります。私は、開会式で「文化祭は“LIVE”です。“LIVE”は発表者とフロアの観客が一体となり、盛り上げる場面と静かに聴く場面など、体育館にいる全員がメリハリをつけて参加することで成功します。“LIVE”の“I”は一人称の私、一人一人が積極的に参加することで、Iが♡になり、“We Love Fuji.”藤中を好きになることを期待します。」と話しました。

藤中の文化祭で大切にしてほしいことは、文化部の発表の場という意義です。私は部活動を通して、「緊張」を体験してほしいと考えています。大会のある部活動は、大会で「緊張」を体験できますが、大会のない文化部は文化祭のステージ発表が、「緊張」を体験できる機会となります。これから先、入試や面接など人生の大切な場面では、必ず緊張すると思います。全ての部活動に、緊張する場面が設けられていることは、とても意義のあることです。

おそらく、文化祭を行っている中学校はとても少ないと思います。30年ほど前は、写生会や持久走大会等の多くの学校行事がありました。諸事情でなくなりました。一度なくなった行事の復活は、とても困難なものです。

これからも生徒の力によって、藤中の文化祭が継承されることを願います。

## 〈藤中をよりよくするために〉

9月25日(木)に、生徒会本部役員の立会演説会が行われました。当日は、学校運営協議員の方にもご覧いただき、立候補者が堂々と演説する姿と、演説をしっかりと聞く生徒の姿に感心されていきました。藤中学校をよりよくしようと考え、立候補した皆さんに感謝しています。立候補した行動力を大切にしてほしいと思います。

立会演説会の挨拶で、私は次の話をしました。

### 〈概要〉

まず、藤中学校をよりよくしようと考え、立候補した皆さんに感謝を申し上げます。立候補のコメントを読み、藤中をよくしたいという熱意が伝わってきました。その思いをしっかりと伝えてください。

さて、立候補者はみんな「よい学校にしたい。」と言っています。演説を聞く時の注意点は何でしょうか。

私の学校をよくするイメージは、生徒全員で登山をするようなものだと考えています。みんなで登る山が「目標」、その山の登り方が「方法」になります。どの山に登ろうとしているのか、どうすればみんなで登れるのか、共通理解を図れるとよいと思います。言い換えれば、目的と手段になります。目的と手段が分かりやすく、実現できそうかを聞き、考えて投票してください。

私が考える「よい学校」は、「卒業生が応援してくれる学校」です。卒業して母校のよさに気付き、様々な形で応援してくれると思います。そのために、日々の学校生活、学校行事、部活動等を充実させることが大切だと考えています。

ご家庭でも、機会があれば、藤中を卒業した高校生に「藤中のよさ」を聞いてください。

## <生徒の活躍>

### 鶴ヶ島市内読書感想文コンクール

自由図書部 最優秀賞 1名  
課題図書部 最優秀賞 1名

### 鶴ヶ島市科学教育振興展覧会

優良賞 2名  
努力賞 4名

### Tsurugashima, Ogose and Moroyama English Speech Contest

3rd place 1名

### 入間地区発明創意工夫展

優良賞 2名

### 新人体育大会入間北部大会(個人は入賞のみ)

野球(鶴・富士見合同) 初戦惜敗  
サッカー 3位  
ソフトボール(桜・館洞) 地区大会1位 県大会  
テニス男子 団体3位  
個人1位 (県大会)  
テニス女子 団体2位 (地区大会1位 県大会)  
個人3位 (県大会)  
バスケットボール男子 初戦惜敗  
バスケットボール女子 初戦惜敗  
バレーボール1位(県大会)  
剣道男子 団体2位(県大会)  
個人1位 (県大会)  
剣道女子 団体予選リーグ惜敗  
卓球男子 団体3位  
卓球女子 団体3位  
複3位 (県大会)  
陸上競技 男子総合1位 女子総合1位  
<男子> (○県大会出場種目)  
2年100m 2位  
200m 2位 ○  
400m 3位  
800m 1位 ○  
1500m 1位  
3000m 1位 ○ 3位 (1500m○)  
4×100mR 3位  
男子四種競技 3位 (110mH○)  
<女子>  
800m 2位 ○ 3位  
1500m 2位 ○ 3位  
110mH 2位 ○  
4×100mR 2位 ○  
走高跳 1位 ○  
走幅跳 1位 ○  
砲丸投 3位 ○  
県大会水泳女子  
200m背泳ぎ 2位  
4×50mフリーレー 8位

## <叱る依存がとまらない>

夏休みの研修会で、講師の先生から多数の本の紹介がありました。その中に「<叱る依存>がとまらない 村中直人著 紀伊國屋書店」がありました。興味が湧いたので、購入して読みました。心理士の立場から脳科学を踏まえて書かれていて、納得できる場所もありました。

「叱る」を辞書で調べると、「(目下の者に対して)よくないことであると強く注意し、厳しく言い聞かせる。」とあります。上司と部下、教師と生徒、先輩と後輩など、目上と目下の関係があります。また、親子も似たような関係かもしれません。

私も若い頃は「叱る」に依存していた時期があったと思います。その頃を思い出すと、相手の行動が変わらないことに、イライラして感情的になっていました。要は、自分の思い通りにならないことに腹を立てていました。感情的に叱っても、相手も「叱られるのが嫌だ、面倒だ。」と、思っていれば、表面的には変わっても、本質的な改善にはなりません。

私は、自分の子どもの成長とともに、相手に対して「何をやっているんだ。」より、「何をやらせているんだ。」と考えられるようになって、叱ることが減ったと思います。人は言われた通りではなく、理解したように行動します。ですから、相手の行動から伝え方を考えるようにしています。感覚としては、「叱る」から「一緒に考える」になったのだと思います。

中学生になると、なかなか親の言う通りにはなりません。むしろ、発達段階から考えて、自然な面もあります。ですから、子どもの本音に耳を傾けることが必要なのだと思います。

叱ることが増えたと感じるご家庭は、依存になっていないか、見直してください。

## <ワンタッチネクタイの併売について>

藤中学校のワンタッチネクタイを業者の方に製作をお願いし、見本ができました。1月を目途に購入できます。価格は、通常のネクタイよりも300円程度高くなる見込みです。

購入を検討されるご家庭は、藤中学校の制服取扱店にお問い合わせください。

